

KSKP ゆめごよみ風だより 第3種郵便物承認 通巻12909号 2025年6月11日発行

編集人 特定非営利活動法人 ゆめ風基金事務局

(〒533-0033大阪市東淀川区東中島1-13-43-106) TEL06-6324-7702

ゆめごよみ風だより 111号

INDEX (見出し)

・巻頭言

・総会報告

・能登半島地震 被災地より

・リレーエッセイ 災害と障害者 第84回

・BCPのご相談はゆめ風へ

・応援団からこんにちは！ vol. 13

・カンパをいただいた団体/事務局の動き

・会計報告 (別紙)

・各地からの風だより

阪神淡路大震災から 30年、あらためて振り返って

理事 石橋 宏昭

震災の前日、今思い起こすと、日常にない不思議な事象がいくつかあった。

震災前日は祭日で仕事に行ったが、仕事は早めに終わり、催し物の企画準備で神戸駅に行っていた。

福祉のまちづくりの催しのためのデモンストレーションをやっていた。それが終わって神戸駅で車に

の乗ろうとした時、両足がつった。夜は「えんぴつの家」で会議を行った。私は翌日早めの仕事の予定が

あったので、早めに帰路についた。家に着き車から降りて空を見ると、赤々としたピンク色の月がとても

印象深かったのを思い出す。気持ち悪いなあと思いつつ家に入った。横になって寝ようとしたが、首が

痛くてなかなか寝付けなかった。1時過ぎ迄寝付けず、うたたね状態でトラックがぶつかってきたような

感 触^{かんしよく}があり、次^{つぎ}にゴーっという音^{おと}がして大きく揺^{おお}れた。これが1月17日^{がつ にち}、午前5時46分^{ごぜん じ ふん}、阪神淡路大震災^{はんしんあわじだいしんさい}

の最初^{さいしよ}の揺^ゆれだった。母親^{ははおや}は入院^{にゆういんちゆう}中で、父親^{ちちおや}と二人暮^{ふたりぐ}らした。家^{いえ}を飛び出^とそうとしたが、ガラスの

破片^{はへんなど}等^{あぶ}で危^{ちちおや}ないからと父親^とに止められ、家^{いえ}から出^でられない状態^{じょうたい}だったが、ご近所^{きんじよ}の外国人^{がいこくじん}に

助け^{たす}出^だされた。地震^{じしん}の揺^ゆれが弱^{よわ}くなった時^{じてん}点^{ろっこう}で「六甲^{ろっこう}デイケアセンター（以下^い六甲^{ろっこう}デイ）」にむ^むかった。

父親^{ちちおや}は弟^{おとうとかぞく}家族^{ひなん}のもとに避難^{ひなん}した。

震災^{しんさいしよにち}初^{よくじつ}日^{ろっこう}と翌^と日は六甲^{にちめ}デイに泊^{おおさか}まり、3日^{ぜんしやうれん}目^{じむしよ}には大阪^いの全^{ひが}障^{いじょうきよう}連^きの事^し務^じ所^むに行^いって被害^{ひがい}状^{じょう}況^{きよう}などを

報^{ほうこく}告^{かえ}。その帰^{おおさか}りに大阪^ふ府^{つうこうしやう}警^{しやう}に寄^{ふた}って通^{ろっこう}行^{もど}証^しをもらって再^{また}び六甲^{ろっこう}デイに戻^{もど}った。

数^{すうじつご}日^{しよくば}後^{でんわ}、職^{しゆっきん}場^しから電^{ろっこう}話^しがあり「出^{しゆっきん}勤^ひしてくれ」とのことだった。六甲^{ろっこう}デイから出^{しゆっきん}勤^ひする日^{がつはん}が1月^が半^{はん}く

ら^{つづ}い続^{おも}いたと思^{ろっこう}う。そのころ、六甲^{ろっこう}デイからも避^{ひなんしよ}難^{しよ}所^{しよ}としての提^{ていきよう}供^おは終^でえるから出^いて行^いってほしいと

言^いわれたが、たまたま仮^{かせつじゆうたく}設^あ住^す宅^{ばしよ}が当^{かくほ}たって住^すむ場^{かくほ}所^{かくほ}は確^{かくほ}保^{かくほ}できた。

仮^{かせつじゆうたく}設^{ねん}住^{かげつ}宅^すでは1年^{ねん}1か^{かげつ}月^すを過^すごした。ようやく仮^{かせつじゆうたく}設^{はい}住^{はい}宅^{はい}に入^{はい}ることはできたが、ポ^ポー^ポー^ポアイ^ポランド^ポ

仮^{かせつじゆうたく}設^{ちゆうしやじよう}住^{うえ}宅^{しやうがいしやよう}は駐^{ちゆうきんじよがい}車^{ゆうこうきげん}場^きがなかつた上^{しんさいまえ}、障^{しんさいまえ}害^{しんさいまえ}者^{しんさいまえ}用^{しんさいまえ}「駐^{しんさいまえ}禁^{しんさいまえ}除^{しんさいまえ}外^{しんさいまえ}」の有^{しんさいまえ}効^{しんさいまえ}期^{しんさいまえ}限^{しんさいまえ}が切^{しんさいまえ}れてい^{しんさいまえ}た。たまたま震^{しんさいまえ}災^{しんさいまえ}前^{しんさいまえ}

から兵^{ひやうごけんけい}庫^た県^か警^{かせつちやうしや}が建^{かせつちやうしや}て替^{かせつちやうしや}えのため、仮^{かせつちやうしや}設^{かせつちやうしや}庁^{かせつちやうしや}舎^{かせつちやうしや}がポ^ポー^ポー^ポアイ^ポランド^ポにでき^いてい^いたので、そこへもの^いを言^いいに

行^いったが、自^{じたく}宅^{はんけい}から半^い径^{かくほ}2キ^{こま}ロ^い以^い内^いで確^い保^いし^いて^いもら^いわ^いない^いと困^いる、^いと言^いわれ^いた。し^いか^いし、ポ^ポー^ポー^ポアイ^ポラン

ド^{しま}とい^{じじよう}う島^かの事^{ちゆうしやじよう}情^まけ^まもあり、借^{かせつじゆうたく}り^{かんりしや}ら^{けんけい}れる駐^{なんかい}車^{おうふく}場^{おうふく}は全^{かせつじゆうたく}く^{かんりしや}な^{けんけい}かつ^{なんかい}た。仮^{かせつじゆうたく}設^{かんりしや}住^{けんけい}宅^{なんかい}の管^{おうふく}理^{おうふく}者^{おうふく}と県^{おうふく}警^{おうふく}に何^{おうふく}回^{おうふく}か往^{おうふく}復^{おうふく}

し、県^{けんけい}警^{さが}にも「探^{さが}せるなら探^いしてくれ」と言^{さいしゆうてき}ったが、最^{ひやうごけんけい}終^{こうべしじゆうたくきよく}的^{ちゆうしや}には兵^{ひやうごけんけい}庫^{こうべし}県^{しんさいまえ}警^{しんさいまえ}から神^{しんさいまえ}戸^{しんさいまえ}市^{しんさいまえ}住^{しんさいまえ}宅^{しんさいまえ}局^{しんさいまえ}に「駐^{しんさいまえ}車^{しんさいまえ}

許^{きやかしやう}可^{はっこう}証^{ようぼう}を発^{みと}行^{かせつ}して^ふく^ろれ」と要^{ちい}望^{だん}して認^おめ^おられ^おた。仮^{だん}説^おは風^{すきま}呂^{かせ}が小^{かせ}さく、段^{かせ}差^{かせ}も多^{かせ}く、プレ^{かせ}ハ^{かせ}ブ^{かせ}の隙^{かせ}間^{かせ}から風^{かせ}

も入^やって^ねくる。屋^{あまも}根^{あまも}から雨^{あまも}漏^{あまも}りもあ^{あまも}った。

通^{つうきん}勤^{どうろ}については道^{じかん}路^{じかん}がデ^{しよくば}コ^{こうべし}ボ^{かんきようきよく}コ^{しゆうしゆう}で時^{おも}間^{おも}もか^{おも}なりか^{おも}かつ^{おも}た。職^{しよくば}場^{こうべし}（神^{かんきようきよく}戸^{しんさいまえ}市^{しんさいまえ}環^{しんさいまえ}境^{しんさいまえ}局^{しんさいまえ}・ゴ^{しんさいまえ}ミ^{しんさいまえ}収^{しんさいまえ}集^{しんさいまえ}が主^{しんさいまえ}な

仕^{しごと}事^{かせつ}）では、仮^{はい}設^{もの}に入^{もの}って^{もの}いる者^{もの}たち^{もの}はみ^{もの}ん^{もの}なイ^{もの}ラ^{もの}イ^{もの}ラ^{もの}して^{もの}い^{もの}た。各^{かくち}地^{おうえんぶたい}か^{にち}ら^{はや}の応^{にちじよう}援^{にちじよう}部^{にちじよう}隊^{にちじよう}は1日^{にちじよう}も早^{にちじよう}く日^{にちじよう}常^{にちじよう}

に^{もど}戻^{がんば}そうと頑^{げんば}張^{もの}って^{もの}くれ^{もの}たが、現^{げんば}場^{もの}の者^{ひなんじよ}は避^{かえ}難^{あんみん}所^でに帰^きって^きも安^{はや}眠^{しごと}出^{しごと}来^{しごと}ず、で^{しごと}き^{しごと}る^{しごと}だ^{しごと}け^{しごと}早^{しごと}く^{しごと}仕^{しごと}事^{しごと}を

切^きり^あ上^{げんば}げ^{おうえんぶたい}ようとして、現^{いしき}場^さと^お応^お援^お部^お隊^おの意^お識^おの差^おが^お大^おき^おか^おつ^おた。また、同^おじ^お職^お員^おでも被^お害^おが^おひ^おど^おくて

避^{ひなんじよ}難^ね所^とで寝^{もの}泊^{ひがい}まり^くし^{もの}て^{あいだ}い^{かくしつ}る^う者^うと、被^う害^うの^うないベ^うッ^うド^うタ^うウ^うン^うで暮^うら^うし^うて^うい^うる^う者^うと^うの^う間^うに^う確^う執^うも^う生^うま^うれ^うた。

神^{こうべし}戸^{べつわくさいよう}市^{しやうがいしやしよくいん}の別^{ふだん}枠^{しよくば}採^{じたくちか}用^{げんば}の障^{はけん}害^{しやうがい}者^{ていどなど}職^{しやうがい}員^{ていどなど}も普^{しやうがい}段^{ていどなど}の職^{ていどなど}場^{ていどなど}では^{ていどなど}なく、自^{しやうがい}宅^{ていどなど}近^{ていどなど}く^{ていどなど}の現^{ていどなど}場^{ていどなど}に派^{ていどなど}遣^{ていどなど}され^{ていどなど}た。障^{ていどなど}害^{ていどなど}の程^{ていどなど}度^{ていどなど}等^{ていどなど}

は^{はいりよ}配^{おも}慮^{はこ}なく、重^{じやうきよう}たい^じもの^{むしよく}な^{くるま}ども運^{くるま}ば^{くるま}な^{くるま}け^{くるま}れば^{くるま}な^{くるま}らず、し^{くるま}ん^{くるま}ど^{くるま}い^{くるま}状^{くるま}況^{くるま}だ^{くるま}った^{くるま}そう^{くるま}だ。事^{くるま}務^{くるま}職^{くるま}の車^{くるま}い^{くるま}す

利用の障害者も、たとえ駅まで行っても道路もデコボコで

通勤ができなくなった。無理して体の不調に陥った障害者も少なくない。

今後の災害に備えて、そうした職場環境や障害への

合理的配慮も考えていく必要があると思っている。



1996年1月16日～17日障害者春闘

「いやしと点検大いどう」神戸市

福島県郡山市で「第24回定時総会」を開催しました

ゆめ風基金事務局 植野 加代

3月15日（土）、郡山市の「生活介護事業所たいむ IL」にて第24回定時総会が開催されました。正会員

総数54名のうち出席会員は38名（委任状参加17名含む）で、過半数以上の出席があり総会は成立しました。

議案としては、昨年度の事業報告及び決算、今年度の活動計画及び予算、役員選任について審議され、いずれも可決されました。役員選任では、ゆめ風事務局員の阿部俊介が新理事として就任しました。

能登半島地震の救援活動の報告では、12月末時点で39件、総額63,259,140円の救援金をお届けし、新潟県では、液状化の被害のため移転を余儀なくされている事業所もあり、今後も被災地の復興に向け尽力していくことを伝えました。

福島県は東日本大震災後も2度の震災と洪水被害に見舞われました。2日目の交流会では、現地の団体よりこの間の活動報告をしていただきました。

いわき自立生活センターの長谷川秀雄さんは、復興公営住宅で生じている、独居化や高齢化、生活困窮者の増加などの課題に対し、2021年7月「フードバンクふくしま」を立ち上げ、食料等の配布会を始められました。また、この活動を安定して継続させるため、就労継続支援B型事業所の作業として位置づけて取り組んでおられ、その仕組みづくりに感嘆しました。

2日間の日程を終え、「コーヒータ임」の橋本由利子さんに浪江町の中浜海岸付近を案内していただきました。

浪江町は「福島イノベーション・コースト構想」の下で再開発が進み、建設途中のホテルなども

みられましたが、元の人口の10%しか地元に戻っていないとのことでした。

震災と原発事故という性質の異なる災害に遭った福島県。

今回見聞きしたことを真摯に受け止め、今後の活動に活かしたいと強く思いました。



参加できなかった福島の団体から届いたアンケートより

・ 震災するまで原発事故の怖さを知らなかった。

・ 東日本大震災は本当に未曾有の大震災でしたが、それによって、地域の障害福祉が多少なりともスキ

ルアップされ、各事業所や関係機関との連携の大切さを身をもって学ぶ機会となり、実際に連携も進められています。

※2024年度の活動報告書等は、ゆめ風のホームページをご覧ください。

■ 能登半島地震 被災地より

令和六年の出来事



ほうぷ子どもの家（七尾市） 川崎 宏子

非営利活動法人七尾鹿島手をつなぐ育成会の職員。「ほうぷ子どもの家」

「生活介護ほうぷ」の管理者。

私は、ほうぷ子どもの家で児童発達支援管理責任者として、生活介護ほうぷにおいては、サービス管理責任者として日々奮闘しております。

また、私はダウン症の子どもを持つ母親でございます。何かとご家族様からの相談では、ついつい経験したことを参考に熱く語ってしまいます。

令和六年一月一日午後四時十分、能登半島地震が発生しました。私たち家族は避難場所へ急いで移動することが出来ました。そして避難場所からほうぷ子どもの家の利用者の安否確認を急いで行いました。

家族様からは「大丈夫です」と言う返信が戻ってきて胸をなでおろしました。中には、家が倒壊して避難所

生活を余儀なくされた家族もありました。これからしばらくは、不自由な生活をされていくのかなと考える

と寂しくつらい思いになります。でも、みんな生きてて良かったと心から感謝、喜びを感じました。

震災により、事業所の外壁や地面に隆起や亀裂などがあり、玄関前も損傷があり出入りに注意しなければならぬ状況でした。内部は、テレビ二台をはじめパソコンなど業務に不可欠な物品などにも多大な支障をきたしました。営業するにあたって、必要物品の調達、何より職員が無事に仕事に来れるのかなど心配ばかりしていましたが職員皆の頑張りもあり、一月四日から無事営業が可能となりました。

営業する際、大きな問題は、①トイレの水が使えない…毎日水を確保するのに走り回っていました。

②物資不足（弁当が準備できない児童の食べ物の確保）…七尾市をはじめ、各団体さんから配給をいただき大変感謝しています。③必要な物品の準備…ゆめ風基金さんの援助で、パソコン。テレビ・炊飯器・

ストーブなどの電化製品等の救済金を頂き、心から感謝いたしております。④内外部の損傷…危険な

場所の修繕が難民を助ける会から救済金を頂き大助かりでした。七尾市、ゆめ風基金、難民を助ける会

の援助のおかげで、災害で被った大きな傷から小さな傷に改善いたしました。

また、震災後に居住地を失った障害者のために某グループホームから生活介護の要請があり、そのこ

とは以前から当事業所も考えており、意見が一致し令和六年九月の開所に向けて改修工事に入りました。

建築業者には被災者の修繕工事で忙しい中優先してきていただき、八月末で改修工事を終えること

ができました。その際にもゆめ風基金より新しくお風呂の設置やキッチンの設置に多大なるご支援をい

ただき心よりお礼を申し上げます。令和六年九月より生活介護事業所を運営させることができました。

行政、ゆめ風基金のご協力があったの事と感謝申し上げます。

最後にご協力を頂いた企業様のご恩を忘れず、この信頼できる職員と障がい者に寄り添っていき

たいと考えます。ありがとうございました。

俺らの『すまいる』で、また5人で暮らしたい



一般社団法人つながり（羽咋市）

理事・サポーターハウス長 吉田まゆみ

地域サポートハウス楽生（らっきい）をはじめ2か所の就労支援事業と3か所のグル

ープホーム・放課後等ディサービスを運営する。能登半島地震で G H 『すまいる』が被害を受ける。

建物の中に入ると床が傾き、ビー玉が四方八方に転がっていく。周辺の道路は陥没、液状化、隣家の塀は崩れ落ちていた。日が続つにつれ、増々傾きは激しくなり、「もうこの場所で住むことはできない」と思った。

「残念だけど『すまいる』を閉鎖しようと思う」と5人のメンバーたちに伝えた時、ずっと無言だった昌也さんが「どこのホームにも行かない。次の『すまいる』ができるまで家に帰る。だけど、俺らはこの5人で『すまいる』なんや」と言った。他のメンバー4人も黙って頷いていた。きっとみんな同じ気持ちだったのだろう。この時、『すまいる』の再建を目指そうと決意した。

何とか空き家を探したものの、土地・建物・リフォーム代で約2,000万円が必要だった。資金がない。補助金も条件に当てはまらなかった。

復興イベント企画や復興支援ギフトの販売、募金瓶と寄付のお願い、自分たちができることをやった。

全国からの応援は1年間で5,036,366円。ありがたく感謝しかない。そして、「ゆめ風基金」と「AARJapan 難民を助ける会」に資金援助のお願いをして、合わせて1,400万円の助成金が確定した時は、『すまいる』ができる！とメンバーたちと万歳をした。「2025年、新しい年を迎えるのは『新すまいる』やね」が合言葉になっていった。

『すまいる』が完成するまでに何度も「集まって～」と彼らにいろんなことを相談してきた。お金が足りないことを伝えた時、頭を抱えた5人だった。でも絶対にあきらめることはせず、それぞれに自分の思いを語りだしていた。「一人暮らしの夢があること」「家もいいけど、ちょっと家族はややこしいこともある」「(地震で自宅がなくなってしまう)『すまいる』は俺の家なんや」と。

知的障害がある彼らが緊張しながら自分のことを語る姿にあっばれとしか言いようがなかった。

「大丈夫、だいじょうぶ、必ず『すまいる』を作っあげからね」ではなく、彼らを真ん中において「一緒に考えようよ、どうする？」ということを常に大事にしてきた。彼らは、外壁の色、自室の壁、カーテンの色、浴槽と便器の色まで自分たちで決めた。

1月に完成。『すまいる』を見に来られた方に、目を輝かせて自信をもって「これが僕の部屋です！」と紹介している。きっと『俺たちのホームすまいる』という実感をもっているのだろう。

この場をお借りし、応援して頂いた全国みなさんにお礼を申し上げます。ありがとうございました。

ぜひ、『ホームすまいる』にお立ち寄りください。メンバー達が待っています。

■リレーエッセイ 災害と障害者 第八十四回

能登半島地震・豪雨災害から紡いできたつながり



かわもと ひろやす
河元 寛泰

いしかわけん な おししゅっしん いりょうほうじんまつばらかいち いきし えん ぶぶちょう そうだんし えんじぎょうしょ
石川県七尾市出身。医療法人松原会地域支援部部長、相談支援事業所ピアサポートのと

せいしんほけん ふくしし そうだんし えんせんもんいん いしかわけん な おし なかのとまち かつどう
で精神保健福祉士・相談支援専門員として、石川県七尾市・中能登町をエリアで活動。

の と はんとうじしん おくの と ごうう ひさい みなさま こころ み ま もう あ
能登半島地震、奥能登豪雨により被災された皆様に、心よりお見舞い申し上げます。またこれまでに
し えん
支援してくださった多くの方々に感謝申し上げます。

じしん はっせい かぞく はつもうで で とき め まえ とうろう くず た むずか かぞく
地震が発生したのは家族と初詣に出かけていた時で、目の前で灯籠が崩れ、立つことも難しく家族を
まも せいっぱい かぞく りかい ほうじん ふくし かんり ぶちょう たちば
守るので精一杯でした。家族の理解もあり、法人の福祉サービスを管理する部長の立場でありましたので
すぐに職場に向かいましたが、道路が歪み、液状化により水があふれ、信号が停止し、夕暮れの中で津波
けいほう ひび わた けいたい な りようしゃ しよくいん ぶじ ふあん つよく なか
警報のサイレンが響き渡り、携帯が鳴りやまず、利用者や職員が無事なのかと不安な想いが強くなる中
で支援を始めました。この時に印象に残ったことは1月1日に地域活動支援センターに来た利用者達でし
た。避難所へは行かず利用者にとって安心の場所に集まっており、いかに居場所が大事なのかを
かん
感じました。

だいじ いばしょ まも かくふくし じぎょうしょ さいかい かんが どうろじじょう きゅうゆせいげん
大事な居場所を守るために各福祉サービス事業所の再開を考えましたが、道路事情や給油制限により
そうげい こなん だんすい かだい しゅうろけい じぎょうしょ ひさい しごと
送迎が困難、断水によりトイレなどの課題、就労系の事業所では被災により仕事なくなるなどの
きび じょうきょう ひなんとう りようしゃ しよくいん すく なか うんえい じょうきょう
厳しい状況であり、避難等により利用者や職員が少ない中でも運営をしなければならない状況でも
ありました。その中でも救済物資が届いたり、入浴のために施設を利用させて頂いたり普段からつな
がりのあるかたがた かぜききん にほんしょうがい なんみん たす かい ひさいご かたがた
がりの方々やゆめ風基金、日本障害フォーラム、難民を助ける会など被災後につながった方々から
さ えられ、被災後も安心して生活が送れるように支援を続けることができました。また被災しながらも

はたら しょくいん ひへい つよ しょくいん おうえんたいせい いっしょ はたら しょくいん おも き
働く 職員の疲弊が強く、職員の応援体制として一緒に働いてくれることや職員の想いを聴いてくれる
ことは心強く感じました。さらには 9ヶ月経過した頃に県外の方を講師に招き研修を開催した時に、
被災地で働く仲間たちが集まり、語らうことでほっとすることができ、明日へ向き合うこともできたこと
から支援者支援の必要性を感じております。

ふだん ななおし なかのとまち かつどう の とはんとうじしん おくの と そうだんしえんたいせい きのう ていか
普段は七尾市、中能登町で活動しておりますが、能登半島地震では奥能登の相談支援体制の機能が低下
したこともあり奥能登もエリアとして活動しました。市町の福祉課、地元の相談支援事業所など関係
各機関、被災地外からの支援団体等をつなぎながら体制を考え、チームの中で「被災地ファースト」「誰
もとりにこぼさない支援」を大事にしながら支援を展開しています。被災者の中には制度や情報などが
行き届かない、情報があっても申請等どうすればよいかわからず手続きできない方も多くいます。誰も
とりこぼさないために、また被災地に寄り添い支援のおしつけにならない様に、全体をコーディネートす
ることや各支援者のアセスメント等の質を向上するなどの人材育成など中間的機能が求められると
感じております。

ひさいち しえん おと きよりかん ちか ひなんじょ かせつじゅうたく せいかつ むずか ぜんかい
被災地支援をするなかで、音や距離感の近さなどから避難所や仮設住宅で生活することが難しく全壊
等の自分の家で生活をする方、公費解体を選択するかどうかや仮設住宅後の生活、生活再建に向けて不安
を感じる方、今まで生活していたが地域基盤が被災したことにより生活が難しくなった方、通院等の移動
支援サービスが以前から地域になく、災害後により移動が難しくなった方たちがおられます。また、8050
問題だけでなく 9060問題、ひきこもりなど今まで地域の中で潜在していた課題などが次々に顕在化され
ています。被災により仕事や日中の居場所等の社会資源などを失うことがあります、新たな取り組み
や体制などを考える機会にもなりました。七尾市、中能登町では自立支援協議会にてこれまでの課題や
活動などを振り返り、七尾市社協が配布した緊急ファイルとの連携や災害に関する個別支援計画書も
模索しております。

これらの活動は「私」だけでは困難であり、つながりから紡ぎだされた「私たち」だからこそ展開で
きてきたものだと考えております。また平時から備えておかなければ災害時には動けないことも改めて
感じております。さらに自分を大切に、無理をしないことが大事でありセルフケアもぜひ日ごろから
考えておくと思いいます。私はこれからも能登で生きていきます。能登に生活する者として、精神

保健福祉士、相談支援専門員として、一つずつできる範囲で活動を継続していきたくて思っています。

もし願うのであれば皆様に今後も引き続き関心を寄せて忘れないで頂ければ嬉しいです。たくさんのつながりがあることで私たちは活動ができますので、想いを寄せ合い、お互いにできることから一緒に一歩ずつ歩めたらと思います。

— B C Pのご相談はゆめ風基金に —

本来の福祉事業所の事業継続計画とは？

事務局長 八幡 隆司

なぜ義務化なのか？

2021年の介護報酬改定に伴い、介護保険法や障害者総合支援法に基づく福祉事業を行う福祉事業者に対して、事業継続計画（以下B C P）策定が義務化され、2024年4月から研修と訓練も行う必要が出てきました。

国は南海トラフなどの災害に備え、2020年までに大企業の100%、中小企業の50%でB C P策定をすることを目標としていました。ただこれはあくまでも目標なので、義務化する法律はありませんでした。

2017年に全国の災害拠点病院でのB C P策定は義務化されましたが、これは全病院の1割にも満たず、今もその他の病院ではB C Pは策定されていません。

福祉サービス事業所ではたった一人で相談事業をしているところもありますが、それらも含めすべてのところでB C P策定と研修・訓練が義務化されたのです。

企業のB C Pと福祉事業所のB C Pの違い

企業にとってB C Pを作る目的は重要業務を守り、災害があっても収益を落とさないことにあります。だからB C P策定は業務の優先順位を決めることが重要とされ、1日も早い事業の再開が目標となっています。しかし福祉サービス事業所では災害時に利用者の命と安全を確保することを優先するので、収益につながらない業務が多く発生します。事業の再開が遅れても、あくまで障害者や高齢者（その

家族も含めて）の生活再建に尽力することが求められます。災害時には様々な相談が寄せられますが、いくら電話で相談を聞き、その相談に対処するため動いても、現在の基準では1円の収益にもなりません。企業のBCPから見るとこれは優先順位が低いということです。また厚生労働省が災害時に膨らむサービスを想定した予算を組むこともなく、その一方で義務化しているのもおかしいことだと思っています。

講師が圧倒的に不足したままの研修義務化

これまでの災害で障害者への支援を行っているところはゆめ風基金を含めてもほんのわずかです。まして災害時の福祉施設の状況やBCPのことを分かっている人はそういないはずです。それなのに全国に5万か所近くある福祉サービス事業所の研修を誰が引き受けることができているのでしょうか。現在多くの経営コンサルタント会社が福祉サービス事業所のBCP研修に参画していますが、これらの人は企業BCPに詳しくても災害時の福祉事業所のことを知らない人ばかりです。厚生労働省のホームページにあるBCP研修動画でさえ、おそらく経営コンサルタント会社が作ったと思われるような福祉事業への理解を欠いたものとなっています。

ゆめ風基金では14年前から大阪でBCP研究会を続けています。BCPがこのような状態で義務化されたことは不本意ですが、せつかく毎年研修をしなければならないのであるなら、災害時に障害者・高齢者が本当に安心して暮らせるような研修になればと思っています。

もしBCP研修などで困っているところがあれば、ぜひゆめ風基金にご相談ください。



2016年BCP机上訓練

■ 応援団からこんにちは vol. 13

災害時にはより小さな地域単位、「町」や「村」での情報が必要になってきます。そこで、いざ、災害が発生したときに「地域単位」で情報収集してくださる団体を募集することにしました。それが「ゆめ風応援団」です。

「ゆめ風^{かぜ}応援^{おうえん}団」のみなさんからの自己^じ紹^{しょう}介^{かい}をかねたメッセー^{とど}ジをお届けするシリーズ第^{だい}13弾^{だん}！

認定^{にんてい}NP0法人^{ほうじん}ふよう土^ど2100（福島^{ふくしま}県^{けん}郡^こ山^{やま}市^し）

理事 大澤 康泰



私^{わたし}たちは、「2100年^{ねん}に福島^{ふくしま}で生まれた子^うども達^{たち}が安心^{あんしん}して暮^くらせる、より幸^{しあわ}せな地^ち域^{いき}を作るため、
私^{わたし}たちが有機^{ゆうき}腐^ふ葉^{よう}土^どとなつて子^こども達^{たち}の命^{いのち}と安全^{あんぜん}を守る活^{かつ}動^{どう}を続^{つづ}ける」をミッシ^{ひがしにほんだいしんさい}ョンに、東日本大震^{ひがしにほんだいしんさい}災^{さい}・
原^{げん}発^{ぱつ}事^じ故^こで被^ひ災^{さい}した障^{しょう}がい者^{しゃ}家^か族^{ぞく}のみな^{いばしよ}の居^{はげ}場^ば所^{しよ}づくりに励^{はげ}んでいます。

障^{しょう}がい児^じ通^{つう}所^{しよ}支^し援^{えん}事^じ業^{ぎやう}、障^{しょう}がい者^{しゃ}家^か族^{ぞく}の相^{そう}談^{だん}支^し援^{えん}事^じ業^{ぎやう}では、子^こども達^{たち}が、巣^す立^だつ時^{とき}ま^めで、切^きれ目^めな
く支^さえ^さるよう一^{ひとり}人^{ひとり}一^{ひと}人^{ひとり}の個^こ性^{せい}を尊^{そん}重^{ちやう}し、職^{しよく}業^{ぎやう}体^{たい}験^{けん}や生^{せい}活^{かつ}訓^{くん}練^{れん}など自^じ立^{りつ}支^し援^{えん}活^{かつ}動^{どう}に力^{ちから}を注^そぐ日^ひ々^びを
過^すごしています。

この冬^{ふゆ}、ゆめ風^{かぜ}さん^{きゆうえんきんじよせい}の救^う援^{えん}金^{きん}助^{すけ}成^{せい}を受けて、「あゆ一^{きゆうはいすいかいしゆうこうじ}む」の給^て排^が水^{すい}改^{かい}修^{しゆ}工^{こう}事^じを手^て掛^がけることができま
した。おかげさまで、これまでなかなかお湯^ゆが出^でなくて、「冷^{つめ}たくて嫌^{いや}だ！」と^こい^こつ^こていた子^こども達^{たち}も、
安^{あん}心^{しん}して手^て洗^{あら}いすることができ、感^{かん}染^{せん}予^よ防^{ぼう}対^{たい}策^{さく}も強^{きやう}化^かできました。

東日本大震^{ひがしにほんだいしんさい}災^{さい}・原^{げん}発^{ぱつ}事^じ故^こ直^{ちちよくご}後^{かつどう}の活^{ことし}動^{ねんめ}から今^{むか}年^{げんぱつじこ}で15年^{きおく}目^{しだい}を迎^{うす}えます。原^{げん}発^{ぱつ}事^じ故^この記^き憶^{おく}が次^{しだい}第^{うす}に薄^{うす}れてい
く中^{なか}、福^{ふく}島^{しま}県^{けん}で活^{かつ}動^{どう}する地^{じもと}元^よNP0に寄^より添^そつてくれる皆^{みな}さん^{しえん}の支^{こころ}援^{かんしや}に心^{もう}より感^あ謝^あを申^あし上^あげます。

これからも福^{ふく}島^{しま}の未^み来^{らい}づくりの一^{いち}員^{いん}として、多^た様^{やう}性^{せい}のある子^こどもやそ^かの^{ぞく}ご家^か族^{ぞく}が平^{びやう}等^{どう}に安^{あん}心^{しん}して
暮^くらせる地^ち域^{いき}を^め目^め指^さしていきま^さす。

NP0法人^{ほうじん}みんなのしあわせプロジェク^{こうぼう}ト工^{みやぎけんそうまし}房^ふもくもく（宮城^{みやぎ}県^{けん}相^{そう}馬^ま市^し）

所^{しよ}長^{ちやう} 佐^さ藤^{とう} 定^{さだ}広^{ひろ}



ゆめ風^{かぜ}さん^しを知^{ひがしにほんだいしんさい}つたのは、東日本大震^{ひがしにほんだいしんさい}災^{さい}の直^{ちちよくご}後^{かつどう}のことでした。当^{とう}時^じ、私^{わたし}は南^{みな}相^み馬^ま市^しの障^{しょう}がい者^{しゃ}の
福^{ふく}祉^し事^じ業^{ぎやう}所^{しよ}で働^{はたら}いていましたが、原^{げん}発^{ぱつ}事^じ故^こでほとんどの市^{しみん}民^{みん}、利^り用^{りやう}者^{しや}が県^{けん}内^{ない}外^{がい}に避^ひ難^{なん}しました。2011
年^{ねん}6月^{がつ}に仙^{せん}台^{だい}で開^{ひら}かれる「と^{おんがくさい}つておきの音^{おんがく}楽^{さく}祭^{さい}」というイベ^{さんか}ントに参^{りやうしや}加^{ひなん}予^{ひなん}定^{ひなん}でした。利^{りやうしや}用^{ひなん}者^{ひなん}も避^{ひなん}難^{なん}を
余^よ儀^ぎなくされ、戻^{もど}つてきた利^{りやうしや}用^{すう}者^{にん}も数^{じやう}人^{たい}の状^{さん}態^かでしたが、参^き加^きするこ^{とき}に決^{おんがく}めました。その時^{とき}、音^{おんがく}楽^{さく}

祭の事務局の紹介で、支援してくださったのがゆめ風さんでした。涙、涙の再会、みんなでオリジナルの曲を歌うことができました。

その後、私は地元の相馬市で、「工房もくもく」を立ち上げましたが、令和元年の台風19号と1ヶ月後の大雨で、床上浸水と車が水没。その時、送迎車の購入費用の一部を支援してくださったのが、ゆめ風さんです。その後、高台に移転しましたが、震度6強の地震が発生、それでも前を向いてすすんで進んできました。

能登の大地震と大雨、大船渡での山火事、全国で自然災害が頻繁に発生しています。情報収集と情報発信、困っている時に、いち早く動いてくれるゆめ風さんをリスペクトしていますし、これからも応援していこうと思っています。

■カンパをいただいた団体 2025/1-3

お店に募金箱を置いてくださったり、街頭募金やバザー、イベントで集めてくださったりしています。本当にありがとうございます。もしも記載漏れがありましたらご連絡ください。

1/7 自立生活センター松山（松山市）

1/8 清心中学校・清心女子高等学校（倉敷市）

1/10 出発のなかまの会（大阪市）、聖愛園（大阪市）

1/14 大阪ヨハネ教会女性の会（大阪市）

1/17 プール幼稚園（大阪市）

1/18 黒川こころの応援団（黒川郡）

1/24 喫茶楽風（さいたま市）

1/30 出発のなかまの会（大阪市）

2/5 豊能障害者労働センター（箕面市）、聖バルナバ病院（大阪市）

2/10 自立生活センター・立川（立川市）

2/13 えにしに集う音楽仲間たち（大阪市）

- 2/18 ^{くろかわ} 黒川 ^{おうえんだん} ころの応援団 ^{くろかわぐん} （黒川郡）
- 2/20 ^{たちあらいまちしょう} 大刀洗町 ^{じしやおや} 障がい児者親 ^{かい} の会ぽけっと
- 2/26 ^{つぼいのりおしょうてん} 坪井令夫商店 ^{なごやし} （名古屋市）、^{めいしょうようちえん} 明照幼稚園 ^{はやままち} （葉山町）
- 2/27 ^{しょうがいじ} 障害児・者 ^{しや} の生活 ^{せいかつ} と教育 ^{きょういくけん} 権 ^{ほしょう} を保障 ^{おおさかし} しよう（大阪市）
- 3/4 ^{しょうがいしやせいかつしえん} 障害者生活支援センター ^{まつやまし} ぐっとらいふ（松山市）
- 3/6 ^{にしきほいくえん} 錦保育園 ^{とめし} （登米市）
- 3/11 ^{じりつせいかつ} 自立生活センター ^{まつやま} 松山 ^{まつやまし} （松山市）、^{えどがわく} まちっこプロジェクト（江戸川区）
- 3/12 ^{くさ} 草の実会 ^{みかい} ネット ^{さっぽろ} さっぽろ ^{さっぽろし} （札幌市）
- 3/14 ^{おかやま} 岡山 ^{くらしきし} マインド ^し ころ（倉敷市）
- 3/14 ^し いーはーとーぶ（さいたま市）
- 3/17 ^{すいたしょう} 吹田障がい者 ^{しやきょうぎかい} 協議会 ^{すいたし} （吹田市）
- 3/18 ^{さかまちしんしんしょうがいじしや} 坂町心身障害児者 ^{かい} ゆずりはの会 ^{あきぐん} （安芸郡）、^{くろかわ} 黒川 ^{おうえんだん} ころの応援団 ^{くろかわぐん} （黒川郡）
- 3/24 ^{かぜ} ゆめ風 ^{かが} ネット ^{かなざわし} 加賀（金沢市）
- 3/25 ^{じぎょうだん} ひまわり事業団 ^{しずおかし} （静岡市） / ^{あまがさき} 尼崎 ^{はんしんだいしんさいちんこん} 1.17阪神大震災鎮魂 ^{ぼうさい} と防災 ^{つど} の集い ^{じっこういんかい} 実行委員会 ^{あまがさきし} （尼崎市）
- 3/31 ^{にほんじりつせいかつ} 日本自立生活センター ^{きょうとし} （京都市） / ^{ふくし} かまくら福祉 ^{きょういく} ・教育 ^{かまくらし} ネット（鎌倉市）

お詫び

2024年12月24日にグリーンハイツ地区福祉委員会様よりご寄付をいただいていたのですが、手違いにより記載が漏れておりました。また、2024年8月～12月に黒川ころの応援団様よりご寄付をいただいていたが、記載が漏れておりました。心より深くお詫び申し上げます。

■事務局の動き

2025年1月から3月の動きを一部ご紹介します。

毎週（曜日不定）：事務局会議 毎週金曜日：新HP打ち合せ ※BCP（事業継続計画）

1/6 大阪手をつなぐ育成会講演

- 1/7 おおさか^{さいがいしえん}災害支援ネットワーク（OSN）^{せわやくかい}世話役会 / ^{の とはんとしえんかいぎ}能登半島支援会議
- 1/8 BCP^{けんきゅうかい}研究会
- 1/11 ^{じりつ}自立ステーションつばさ^{こうえんかい}講演会
- 1/14 ^{おくの とちいき}奥能登地域自立支援協議会^{わじましれんらくかい}輪島市連絡会
- 1/15 ^{おおさかきゅうえんほんぶかいぎ}大阪救 援 本部会議
- 1/15・16 ^{つうしんりんじごうはっそう}通信臨時号発送
- 1/18 ^{がいとう}街頭カンパ
- 1/20 ^{ねん}30年イベント^{きかくかいぎ}企画会議
- 1/20 ^{りじかい}理事会
- 1/22 ^{いどうしえん}移動支援ネットワーク・さかい^{こうえん}講演
- 1/23 OSN^{せわやくかい}世話役会
- 1/25 ^{ひょうごしょうがいしやもんだいれんらくかいぎこうえん}兵庫障 害 者問題連絡会議講演
- 1/29 ^{てんのうじく}天王寺区自立支援協議会^{こうえん}講演
- 2/1 ^{ひとけんへいわがくしゅうかい}人権平和学習会^{ほじょ}ZOOM補助
- 2/2 ^{じりつせいかつ}自立生活センター^{こうえん}リアライズ講演
- 2/3 ^{つうしん}通信110号^{ごうへんしゅうかいぎ}編集会議
- 2/4 Be^{こうえん}すけっと講演
- 2/4 ^{の とはんとしえんかいぎ}能登半島支援会議
- 2/5 NPO^{ほうじん}法人チャレンジド^{こうえん}講演
- 2/10 OSN^{ていれいかい}定例会
- 2/12 ^{あかしししょうがいとうじしやなどだんたいれんらくきょうぎかいこうえん}明石市障 害 当事者等団体連絡協議会講演
- 2/13 ^{おくの とちいき}奥能登地域自立支援協議会^{わじましれんらくかい}輪島市連絡会 / ^{の としえんほうこくかい}JDF能登支援報告会
- 2/13 ^{りじかい}理事会
- 2/14 ^{どうむ}童夢KANSAI^{じっこういんかい}実行委員会
- 2/17 ^{なごやしひがしくこうえん}名古屋市東区講演

2/19 ^{つうしん}通信110号 ^{ごうへんしゅうかいぎ}編集会議

2/26 ^{ねん}30年 ^{きかくかいぎ}イベント企画会議

2/28 ^{つうしん}通信110号 ^{ごうへんしゅうかいぎ}編集会議

3/4 ^{の と はんとうしえんかいぎ}能登半島支援会議

3/11 ^{たなべみつびしせいやくろうどうくみあいこうえん}田辺三菱製薬労働組合講演

3/12 ^{けんきゅうかい}B C P 研究会

3/15・16 ^{そうかい}総会

3/24・25 ^{つうしん}通信110号 ^{ごうはっそうさぎょう}発送作業

3/26 ^{の と しえんかいぎ}J D F 能登支援会議

3/28 ^{りじかい}理事会

■会計 別紙

^{かぜ}そよ風、^{かぜ}つむじ風、^{ろっこう}六甲おろし/^{・かくち}各地からの^{かぜ}風だより/2025.1-3

▼^{ぎやつきょう}逆境にある^{かたがた}方々が^{こころ}心おれても、^{なん}何とかもう一度^{いちどたあ}立ち上がれますように（^{せたがやく}世田谷区）

▼^{わたし}私の^{あに}兄も^{しょうがいしゃ}障害者、^{しまい}姉妹の^{えんじょ}援助なくては^{せいかつ}生活できません。能登で^{の と ひさい}被災された^{かたがた}方々、^{しょうがい}障害のある^{かた}方に、

^{すこ}少しですが^{やく}お役に^た立てればと^{おも}思います（^{まえばしし}前橋市）

▼ガザの^こ子どもたちを^{おも}思うと一刻も^{いっこく}早く^{はや}攻撃を^{こうげき}やめて^ほ欲しいです。平和な^{へいわ}世界を^{せかい}実現して^{じつげん}あげたい

（^{たちかわし}立川市）

▼^{の と にじゅうひさい}能登の二重被災に^{はんしんあわじだいしんさい}阪神淡路大震災から^{ねんた}30年経っても^{わす}忘れない^{とうじ}当時の^{きも}気持ちになり、^{ちから}わずかですが力に

なればと^{かぜ}ゆめ風さんに^{たく}託します（^{おおさかし}大阪市）

▼^{せかい}世界が^か変わろうとして^{じこく}います。自国の^{りえき}利益のために^{しゅだん}手段を^{えら}選ばず、他国に^{たこく}軍事^{ぐんじ}圧力^{あつりよく}をかけ^{うば}奪おうと

する^{いせいしゃ}為政者が^{めだ}自立つようになり^{けねん}ました。懸念しつつも^{つよ}強い^{ちから}力にのみ^{せんそう}こまれたら。戦争の^{きょうい}脅威^{かん}を感じ^{かん}ます

（^{ふなばしし}船橋市）

▼^{の と みな}能登の皆さんに^{えがお}笑顔が^{もど}戻りますように（^{の の いちし}野々市市）

▼永^{えい}さん、牧^{まき}さんを偲^{しの}びつつ30^{ねん}年…「これまで」も「これから」も大切^{たいせつ}だと改^{あらた}めて思^{おも}う「今^{いま}」（明石^{あかし}市）

▼自立^{じりつ}の位置^{いち}で頑^{がん}張^ばる、人^{ひと}に心^{こころ}温^{あた}まることありますように（東久留米^{ひがしくるめし}市）

▼過疎^{かそち}地^ちにはこんな^{つめ}に冷^{みず}たい！まだ水^{みず}も出^でないと聞^きくと涙^{なみだ}が出^でます。わづかですがよろしく（長岡京^{ながおかきょうし}市）

▼能登^{のと}半島^{はんとう}地震^{じしん}被災^{ひさい}障^{しょう}害^{がい}者の皆^{みな}様^{さま}へ。私^{わたし}も軽^{けい}度^どですが、精^{せい}神^{しん}障^{しょう}害^{がい}がありま^いす。何^{なに}かのお役^{やく}に立^たてれば
と思^{おも}い送^{おく}らせていただきます（取手^{とりでし}市）

▼12^{がつ}月に閉店^{へいてん}しました。これまで店^{みせ}のお客^{きやく}様^{さま}からお預^{あず}かりした寄付^{きふ}金^{きん}です。よろしくお願^{ねが}いします（箕面^{みの}市）

▼能登^{のと}、北陸^{ほくりく}の方^{かた}々^{がた}が不安^{ふあん}な冬^{ふゆ}をまた迎^{むか}えていることが心^{こころ}苦^{くる}しいです。活^{かつ}動^{どう}ありがとうございま^いす（港^{みなと}区）

▼南海^{なんかい}トラフ地震^{じしん}が起^おこれば、障^{しょう}がい者^{しゃ}はどうなってしまうの^いだろうか？（長岡京^{ながおかきょうし}市）

▼寄付^{きふ}金^{きん}をたくせる信^{しん}頼^{らい}できる団^{だん}体^{たい}があることがうれし^いし、ありがた^いです。（和光^{わこう}市）

▼風^{かぜ}だより送^{おく}って頂^{いただ}きありがとうございま^いす。読^よんで視^し野^やを広^{ひろ}げていま^いす（さいたま^し市）

▼能登^{のと}地震^{じしん}、岩手^{いわて}山火^{やまか}事^じと災^{さい}害^{がい}が続^{つづ}きます。誕^{たん}生^{じょう}日^びを記^き念^{ねん}して少^{すこ}しです^いが役^{やく}立^だてて下^{くだ}さい（常総^{じょうそう}市）

▼岩手^{いわて}山火^{やまか}事^じで避^ひ難^{なん}生^{せい}活^{かつ}を送^{おく}る方^{かた}へ（下妻^{しもつまし}市）

▼大船^{おおふなと}渡^{しえん}の支^{つか}援^{くだ}にお使^{さく}い下^{くし}さい（佐久^{さく}市）

▼フクシマは全^{ぜん}然^{ぜん}終^おわってないし、列^{れつ}島^{とう}災^{さい}害^{がい}だらけ、原^{げん}発^{ぱつ}最^{さい}大^{だい}限^{げん}利^り用^{よう}なんてとんでもない！！（河東^{かとう}郡）

▼弱^{じやく}者^{しゃ}に、助^{たす}けを。求^{もと}めている方^{かた}に届^{とど}きますように。宜^{よろ}しくお願^{ねが}い致^{いた}します（三島^{みしま}郡）

▼色^{いろ}々^{いろ}と災^{さい}害^{がい}が続^{つづ}いていま^いす。政^{せい}府^ふももつと本^{ほん}気^きで対^{たい}応^{おう}を^ほして欲^{ほく}しいです^とね（北杜^{ほくと}市）

▼足^{あし}が弱^{よわ}って来^きましたが毎^{まい}日^{にち}を穏^{おだ}やかに過^すごせる事^{こと}を感^{かん}謝^{しゃ}して送^{おく}らせて頂^{いただ}きます。この世^よから戦^{せん}争^{そう}、天^{てん}災^{さい}
がなくな^いりますように祈^{いの}りなが^うら！（浦安^{うらやすし}市）

▼軍^{ぐん}備^びは充^{じゅう}実^{じつ}しても市^{しみん}民^{みん}の生^{せい}活^{かつ}は守^{まも}れない。軍^{ぐん}備^びより車^{くるま}イス住^{じゅう}宅^{たく}を！（中川^{なかがわ}郡）

▼今^{ことし}年^{さい}で90才^{こんご}になります。まだ今^{つづ}後^ごも続^{つづ}けてい^みきたいです（三浦^{みうら}市）

▼困^{こん}難^{なん}な状^{じょう}況^{きやう}にある方^{かた}々^{がた}に本^{ほん}当^{とう}に役^{やく}立^だつ支^し援^{えん}をしていま^いす「ゆめ風^{かぜ}」に寄^き付^ふでき^て、私^{わたし}自^じ身^{しん}が救^{すく}われ^る

思^{おも}いでおりま^しす（横^{よこ}浜^{はま}市）

へんしゅうこうき
■編集後記

の と かた あなみずまち かしまえき つうしょう えき よ ことし まんかい さくら さ
能登の方から「穴水町にある鹿島駅は、通称さくら駅と呼ばれ、今年も満開の桜が咲きました。これか
らは能登キリシマツツジが見頃です」との心温まる知らせが届きほっこりしました。(う)

まきぐちかずじ かた あ かい し ひる ぶ えん きねんしつき よる ぶ えん
牧ローニさんを語り合う会のお知らせ 昼の部2,000円(記念誌付) / 夜の部3,000円

ねん がつ にち げつ かいじょう おおさかふきょういくかいかん おおさかしてんのうじく
2025年8月18日(月) 14:30~19:30(開場13:45) 大阪府教育会館 たかつガーデン(大阪市天王寺区)

ひる ぶ にん まきぐち かた
[昼の部] 14:30~17:35「8人が牧口さんを語ります」

・パネルディスカッション「^{まきぐち}牧口さんがのこしたもの・^{つた}伝えたいこと」^{じんけん}人権・^{きょういく}教育・^{こうつうまち}交通街づくりの^{してん}視点
から

・^{こむろひとし}小室等さん・こむろゆいさんライブ「♪マキさんきこえる〜？」

よる ぶ こんしんかい ぜんいん はな
[夜の部] 18:00~19:30「懇親会~全員でとことん話そう！」

もうしこ ほうほう
お申込み方法 メール/FAX/はがき/WEB[<https://bit.ly/maki3>]

もう こ さき かぜききん おおさかしひがしよどがわくひがしなかじま
[申し込み先]ゆめ風基金: 大阪市東淀川区東中島 1-13-43-106

TEL:06-6324-7702/FAX:06-6321-5662/E-mail:goodbye.makisan@gmail.com

■会計報告

NPO 法人 ゆめ風基金	ただいまの基金額	貸付金の残高	0 円
会計報告	331,387,513 円	これまでの救援金・救援活動費総額	664,330,513 円
		総会員数	13,855 人

		前回報告残高	この3ヶ月の動き 1月から3月まで	今回報告残高 2025年3月現在
収支計算書	収入の部	会費収入	2,376,519	2,376,519
		寄付金収入	24,923,258	24,923,258
		臨時寄付金収入	654,161	654,161
		助成金収入	0	0
		事業収入	623,061	623,061
		雑収入	47,090	47,090
		貸付金返済収入	0	0
		保証金返済収入	0	0
		預り金収入	435,406	435,406
		未収入金収入	217,000	217,000
		未払金収入	0	0
		合計	29,276,495	29,276,495
	支出の部	救援金支出	11,900,499	11,900,499
		救援活動支出	147,609	147,609
		貸付金支出	0	0
		基金拡大活動支出	67,768	67,768
		防災活動事業支出	184,390	184,390
		広報活動事業支出	709,461	709,461
		その他事業支出	209,040	209,040
		人件費支出	3,048,489	3,048,489
		その他事務費支出	1,750,130	1,750,130
		預り金支出	529,280	529,280
		未払金支出	292,920	292,920
		固定資産購入支出	0	0
		保証金支出	0	0
		合計	18,839,586	18,839,586
	差引：収支差額		10,436,909	10,436,909
貸借対照表	資産の部	基金特別会計預金	321,615,168	9,772,345
		一般会計現金預金	2,701,250	664,564
		[現金預金合計]	324,316,418	10,436,909
		障害者貸付金	0	0
		有形固定資産	202,489	0
	負債の部	その他の資産	1,349,449	△ 217,000
		合計	325,868,356	10,219,909
		未払金	292,920	△ 292,920
		預り金	238,830	△ 93,874
		その他の負債	0	0
		合計	531,750	△ 386,794
	差引：正味財産		325,336,606	10,606,703

- 脚注 1. 今回は1月から3月までの3ヶ月間の報告です。
2. 救援金は17件の支払いがありました。(能登15件ジャマイカ台風1件東日本1件)
3. その他は特に大きい変動はありません。

災害別の救援金総額 以前に他の災害でお届けした救援金はゆめ風WEBサイトとブログに掲載しています

東日本大震災	2016年熊本地震	2018年西日本豪雨	2024年能登半島地震
350,427,104 円	55,598,387 円	45,164,095 円	75,579,779 円